

「東南アジアでポリオのアウトブレイクが発表されました」

一般社団法人日本渡航医学会 理事長 尾内一信

2019年9月19日、フィリピンでのポリオアウトブレイクが発表されました。

【厚生労働省検疫所 海外感染症発生情報 「ポリオのアウトブレイク-フィリピン」(2019年9月24日)】

<https://www.forth.go.jp/topics/20190926.html>

ワクチン由来の伝播型ポリオウイルス (circulating vaccine-derived poliovirus, cVDPV) 2型による麻痺患者が複数例報告されています。

これを受けて、以下2件のウェブサイトも更新されました。

【厚生労働省検疫所 感染症についての情報 ポリオ (急性灰白髄炎)】

<https://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name09.html>

【厚生労働省検疫所 国別情報：フィリピン】

<https://www.forth.go.jp/destinations/country/philippines.html>

厚生労働省検疫所ウェブサイトでは、フィリピンへの渡航者について、以下の者に対する不活化ポリオワクチン (IPV) の接種を推奨しています。

1. 4週間以上の長期滞在を予定している者 (過去にポリオの予防接種歴がある者も含む)
2. ポリオに対する免疫が低いとされる1975年から1977年生まれの者 (過去にポリオの予防接種歴がある者も含む)
3. ポリオワクチンの定期接種を終えていない者 (長期滞在・短期滞在にかかわらず)
4. ポリオワクチンの接種を受けたことがない者 (長期滞在・短期滞在にかかわらず)

一般社団法人日本渡航医学会は上記の推奨をふまえて、フィリピンのポリオアウトブレイクは、トラベラーズワクチンとしてのIPVの重要性を再認識する機会と考え、以下のよう
に提言します。

1. 野生株ウイルス1型によるポリオ患者発生はパキスタン、アフガニスタンで継続している。これに加え、cVDPVによる麻痺患者がアフリカ諸国 (2型) やフィリピン以外のアジア諸国 (ミャンマー：1型、中国：2型) で報告され、2019年は海外におけるポリオ発生が増加している。フィリピンへの渡航に限らず、感染リスクのある渡航者に対してはIPVの接種を推奨する。
2. 1975年から1977年生まれの者はポリオに対する免疫が低いこと、わが国のかつての経口生ポリオワクチン (OPV) は海外諸国より接種回数が少なく2回接種であったことなどを考慮し、感染のリスクがある渡航者に対しては、追加接種を含めてIPVによる積極的な予防を推奨する。